

219-1953

日本組織培養学会

平成2年12月20日

会員通信
第73号

発行者 一郎 (北国) 立予研),
行山下 田木川都予ル (区生リ) 大(大)
※ 東京立イ話 (03)444-2181 444-2181 内線322

§ 日本組織培養学会第64回大会のお知らせ

会員通信第72号(15頁)でお知らせしましたように、日本組織培養学会第64回大会を平成3年3月22日(金)～24日(日)の3日間にわたり、神奈川県相模原市の麻布大学(旧麻布獣医科大学)キャンパスにて開催いたします。

来年は6月に日米合同組織培養学会がアメリカのカリフォルニアで開催されるために、本第64回大会は例年より少し早く開催することになりましたので、ご参加くださる方のご予定をそのようにお組みください。

本大会では、5つの新しいテーマについてのシンポジウム、培養液の標準化に関するワークショップのほか、細胞解離・組織再構成の権威 A. A. Moscona教授(シカゴ大学)、および細胞培養ひとすじに研究を続けてこられた高岡聡子博士(組織培養記念研究所)に特別講演をしていただくことになりました。口頭発表、ポスターによる一般講演にもできるだけ多数の方々がふるってお申し込みくださるよう期待しています。

日本組織培養学会第64回大会

と き：平成3年3月22日(金)～24日(日)

ところ：麻布大学キャンパス

〒229 神奈川県相模原市淵野辺1-17-71

TEL 0427-54-7111 FAX 0427-54-7661

会 場：A会場：大教室(総会、特別講演、シンポジウム、ワークショップ)

B会場：3号館 315番教室(一般講演)

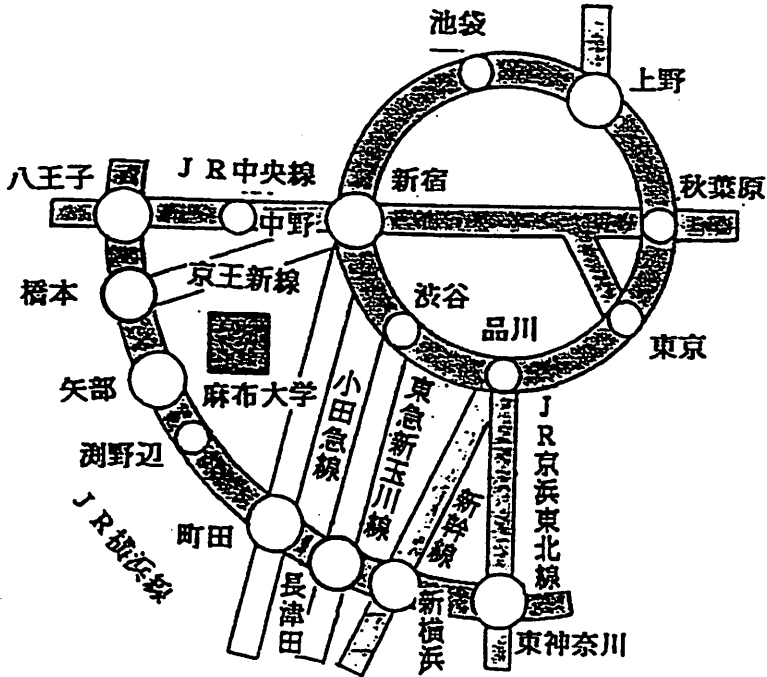
展示(ポスター) 講演・器機展示：体育館

懇親会：麻布大学生協食堂

大会日程：

日		時 間	プログラム	場 所
第 1 日	22日 (金)	8:00-9:00	受 付	大教室玄関
		9:00-12:00	一般講演	大教室・315番教室
		12:00-13:00	昼 食	
		13:00-15:30	シンポジウム(1)(2)	大教室
		15:30-16:30	特別講演(1)	大教室
		16:30-18:00	展示(ポスター)講演	体育館
		18:30-20:00	懇親会	生協食堂
第 2 日	23日 (土)	8:30-12:00	一般講演	大教室・315番教室
		12:00-13:00	昼 食	
		13:00-14:00	総 会	大教室
		14:00-15:00	特別講演(2)	大教室
		15:00-17:30	シンポジウム(3)(4)	大教室
		18:30-20:30	ワークショップ	大教室
第 3 日	24日 (土)	8:30-12:00	一般講演	大教室・315番教室
		12:00-13:00	昼 食	
		13:00-14:30	展示(ポスター)講演	体育館
		15:00-17:30	シンポジウム(5)	大教室

会場への交通



東京より：J R中央線にて八王子駅下車（快速にて約60分）

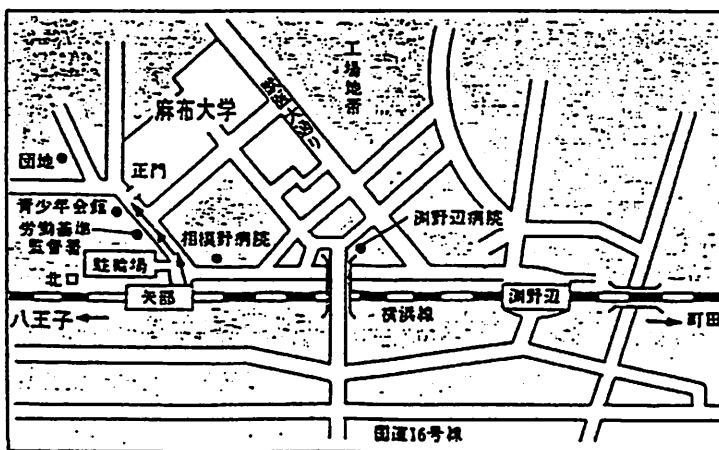
新宿より：京王線にて橋本駅下車（快速にて約50分）

小田急線にて町田駅下車（急行にて約50分）

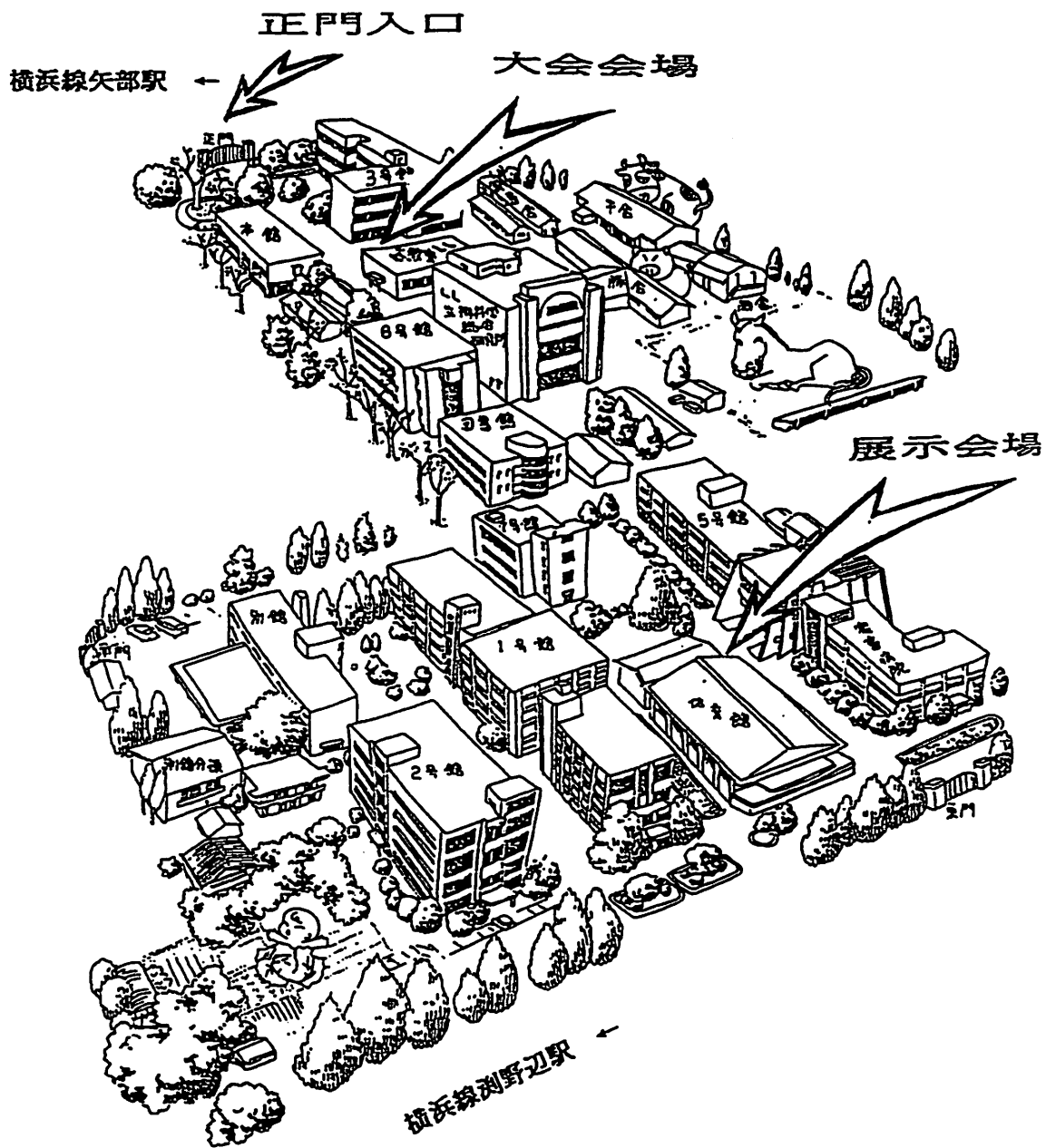
渋谷より：東急新玉川線にて長津田駅下車（快速にて約35分）

関西方面より：新幹線新横浜駅下車（こだま号停車）

上記いずれもJ R横浜線に乗換え矢部駅下車、徒歩約5分



麻布大学キャンパス



参加者および講演者へのお知らせ

1. 参加される方へ

受付：3月22日（金）は午前8時より、3月23日（土）および3月24日（日）は午前8時40分より、大教室（A会場）玄関受付で開始します。

参加費：会員 5,000円
非会員 6,000円
学生 2,500円

抄録集代：3,000円

懇親会：3月22日（金）午後6時30分から8時まで
麻布大学キャンパス内生協食堂にて行います。

懇親会費：4,000円 受付でお支払いください。

昼食：弁当の用意はありませんので、生協食堂または周辺のレストランをご利用ください。

2. 講演される方へ

1) 講演時間

特別公演：講演時間60分

シンポジウム：1テーマ総合討論を含めて2時間30分を予定しています。各講演者の時間の割振りは司会者の指示に従ってください。

一般講演：講演時間10分、討論5分（予定）

2) スライド受付

スライド受付は各会場入口に設けます。

発表の30分前までにお渡しください。（朝9時からのセッションの方は、10分前までにスライド受付を済ませてください。）

3) スライド・映写

35mmのプロジェクターを使用します。いずれの会場も1台しか用意しません。

3. 討論される方へ

1) 所属氏名を明らかにした後、簡潔に質問、コメントを述べてください。

2) 討論時間を有効に使うため、討論者は予めマイクの前に移動してください。

プログラム概要

- ・特別講演(1) (題未定)

シカゴ大学教授 A. A. Moscona博士

- ・特別講演(2) 生きつづける培養細胞

組織培養記念研究所 高岡 聡子博士

- ・シンポジウム(1) 「宇宙生物学と組織培養」
- ・シンポジウム(2) 「パターン形成」
- ・シンポジウム(3) 「哺乳類の全胚培養」
- ・シンポジウム(4) 「昆虫培養細胞の利用」
- ・シンポジウム(5) 「組織・細胞の移植」
- ・ワークショップ「培養液の標準化－MEMのJIS規格策定を契機に－」
- ・一般講演(公募)
- ・展示(ポスター) 講演(公募)

一般講演、展示(ポスター) 講演の募集

一般講演、展示(ポスター) 講演を募集します。ふるってご応募くださいますようお願いいたします。

- ・一般講演・展示(ポスター) 講演の申し込み

本会員通信とじ込みの申し込み用紙を用いてお申し込みください。折り返し抄録用紙をお送りしますので、タイプまたはパソコン、ワープロなどで作製の上、ご返送ください。なお、抄録用紙は昨年と同じ形式です。

- ・講演申し込み締切日 平成3年1月16日(水)

- ・抄録締切日 平成3年2月9日(土)

- ・参加および懇親会申し込み

なるべく早めにお申し込みください。

- ・申し込み、問い合わせ先

第64回大会世話人 黒田 行 昭

〒229 神奈川県相模原市淵野辺1-17-71

麻布大学生物科学総合研究所

日本組織培養学会第64回大会事務局

TEL 0427-54-7111(内線 430)

FAX 0427-54-7661

シンポジウム(1) 「宇宙生物学と組織培養」

司会：佐藤 温重（東京医歯大・歯・理工）

1. 日本における宇宙生物学の動行
佐藤 温重（東京医歯大・歯・理工）
 2. 胚細胞の分化と重力
若原 正巳（北大・理・動物）
 3. 模擬微小重量による培養植物細胞の増殖・分化の修飾
佐藤 文彦（京大・農・細胞実験センター）
 4. 培養筋細胞の高分子合成と荷重刺激
跡見 順子（東大・教・体育）
 5. 高重力による培養細胞の増殖促進と遺伝子
条井 康宏（東京医歯大・歯・理工）
 6. 宇宙放射線による染色体異常誘起性
渡辺 正巳（横浜市大・医・RIセンター）
- 総合討論

シンポジウム(2) 「哺乳類の全胚培養」

司会：江藤 一洋（東京医歯大・顎研・発生）

1. マウス全胚培養法による顔面形態形成の研究
朝田 総一郎（東京医歯大・歯・顎研・発生）
 2. ラット全胚培養法による脳血管構築の研究
葺石 米孝（塩野義研）
 3. 全胚培養法を用いての哺乳類卵黄嚢機能の研究
三木 明德（神戸大・医・二解）
 4. 全胚培養法の生殖発生毒性試験への応用
塩田 浩平（京大・医・一解）
- 総合討論

シンポジウム(3) 「昆虫培養細胞の利用」

司会：三橋 淳（東京農工大・農・植物防疫）

1. Drosophila細胞培養の分子生物学への応用
三宅 端（三菱生科研・細胞）

2. 昆虫細胞培養の天敵ウイルス生産への応用

佐藤 威 (農水省・蚕昆研)

3. 昆虫細胞が生産する抗微生物物質について

名取 俊一 (東大・薬)

4. 昆虫細胞培養の抗癌剤検定への応用

大野 忠夫 (理研・ジーンバンク)

総合討論

シンポジウム(4) 「組織・細胞の移植」

司会：高木 良三郎 (大分医大・一内)

1. 脾島移植

小野 順子 (大分医大・一内)

2. 脾臓内移植肝細胞の増殖と機能

江端 英隆 (旭川医大・二外)

3. 培養皮膚研究の新しい試み

古里 勝利 (広島大・理・生物)

4. 造血幹細胞の移植

原田 実根 (九大・医・一内)

総合討論

シンポジウム(5) 「多細胞形態のパターン形成」

司会：江口 吾朗 (基生研)

1. パターン形成の遺伝的背景

黒岩 厚 (東北大・抗酸菌研)

2. パターン形成の調節因子

井出 宏之 (東北大・理・生)

3. パターン形成の理論生物学的解析

本多 久夫 (鐘紡がん研)

総合討論

ワークショップ「培養液の標準化 —— MEM のJIS 規格策定を契機に —— 」

企画：細胞バンク委員会

司会：水沢 博（国立衛試・細胞バンク）

星 宏良（機能性ペプチド研）

1. JIS 規格と培養液の標準化について — 行政サイドから
山本 健一（通産省・工業技術院・標準部）
2. 培養液の製品化 — メーカーサイドから
中家 茂（日水製薬・開発研究部）
3. 正常細胞の完全培養液の品質と製品化について
山田 進一（極東製薬・開発部）
4. 培養液の検定法について — HeLa S3 による方法
梅田 誠（横浜市大・木原生研）
5. 培養液の検定法について — Vero-317による方法
大野 忠夫（理研・細胞銀行）
6. ハイブリドーマ細胞の培養液の品質について
村上 浩紀（九大・農・食糧化学工）
7. 培養液の品質について — ユーザーサイドから
山根 績（東北大・名誉教授）

総合討論

宿泊のご案内

日本組織培養学会第64回大会では大会事務局の方で特別な宿泊のお世話はいたしません。JR横浜線矢部駅、相模原駅、橋本駅、町田駅、相模大野駅、八王子駅、新横浜駅の近辺に下記のように比較的廉価なビジネスホテルが多数あります。各自直接ご連絡の上、早めにご予約ください。

施設名	電話	部屋数	最寄駅等	ホテル →会場	シングル料 (税・サ料)
ホテルファミリー	0427-59-3789	10室	横浜線矢部駅前	5分	5,150円
相模原第一ホテル	0427-51-6551	80室	横浜線淵野辺駅前	10分	5,900円
センターホテル	0427-59-0271	29室	横浜線相模原駅 15分	25分	6,200円
ビジネスイントレビ	0427-54-5554	30室	横浜線相模原駅 5分	15分	5,500円
小池ビジネスホテル	0427-58-6220	17室	横浜線相模原駅 5分	20分	5,500円
JNファミリー	0427-59-4811	32室	横浜線相模原駅 10分	25分	9,630円
橋本シティーホテル	0427-74-8100	95室	横浜線橋本駅 3分	15分	A : 6,500円 B : 6,900円
橋本カプセルホテル	0427-74-8880	170室	横浜線橋本駅北 口3分	15分	3,200円
ホテル町田ヴィラ	0427-24-0840	164室	横浜線町田駅 5分	22分	7,200円
ホテル新宿屋	0427-22-3112	51室	横浜線町田駅 3分	20分	A : 7,000円 B : 7,500円
サンホテル	0427-24-0708	72室	横浜線町田駅 3分	20分	6,800円
ホテルラポール 千寿閣	0427-49-1121	48室	横浜線町田駅 4分	20分	麻布大特割 7,200円
ホテルザエルシ ィ町田	0427-24-3111	100室	横浜線町田駅 1分	15分	A : 10,197円 B : 11,076円
スカイプラザホテル	0427-26-0031	12室	横浜線町田駅 6分	20分	6,118円

施設名	電話	部屋数	最寄駅等	ホテル →会場	シングル料 (税・サ料)
ビジネスホテル サンライズ	0427-62-8776	10室	J R 相模線上溝 駅前通り	30分	5,500円
ホテルサンエイト	0427-48-2600	38室	小田急線相模大 野駅前	25分	A : 5,150円 B : 6,700円
ホテルダイヤモンド	0427-34-5550	A 5室 B 3室 C 7室	小田急線鶴川駅 前	25分	A : 6,240円 B : 6,670円 C : 6,780円
ホテルサンシャ イン	0427-47-0101	16室	小田急線相模大 野駅3分	25分	5,800円
相模大野ホテル (相模大野ラドン 保健センター)	0427-47-1330	(洋和 室有) 12室	小田急線相模大 野駅南口1分	25分	6,180円
セントラルホテル 八王子	0426-25-1311	53室	J R 八王子駅南 口10分	35分	A : 5,900円 B : 6,400円
千代田ホテル	0426-24-3281	22室	J R 八王子駅2分	30分	5,150円
マロウドイン 八王子	0426-23-7111	A 12室 B 121室 C 7室	J R 八王子駅 5分	35分	A : 5,700円 B : 6,200円 C : 6,500円
ファースト・イ ン八王子	0426-24-1120	136室	J R 八王子駅 5分	35分	3,400円
ホテルツカモト	0426-25-9861	20室	J R 八王子駅北 口1分	30分	5,500円 6,500円
ビジネスホテル ヤジマ	0426-42-9111	A 28室 B 13室	J R 八王子駅7分 京王八王子駅 2分	40分	A : 4,000円 B : 5,000円 (バス付)
八王子プラザホ テル	0426-46-0111	A 15室 B 71室 C 30室	J R 八王子駅3分 京王八王子駅 1分	30分	A : 6,798円 B : 7,704円 C : 8,611円
ビー・アンド・ ビー八王子	0426-25-0051	76室	J R 八王子駅5分 京王八王子駅 15分	30分	6,000円
三恵シティホテ ル八王子	0426-22-3388	A 10室 B 52室	J R 八王子駅4分 京王八王子駅 7分	30分	A : 5,500円 B : 5,700円

施設名	電話	部屋数	最寄駅等	ホテル 一会場	シングル料 (税・サ料)
八王子グランド ホテル	0426-45-0015	A 10室 B 10室	JR八王子駅 5分 京王八王子駅 12分 (送迎バス有)	25分	A : 6,798円 B : 7,365円
カレッジタウン 八王子ゲストハウス	0426-48-2111	19室	JR八王子駅 20分 京王八王子駅 15分	30分	5,098円
セントラルホテル 八王子	0426-25-1311	A 25室 B 13室	JR八王子駅南口 10分	30分	A : 5,900円 B : 6,400円
ホテルサンマリ ーナ西八王子	0426-66-5111	A 20室 B 10室	JR西八王子駅 2分	40分	A : 5,000円 B : 6,000円
ヤジマホテル	0426-42-9111	A 28室 B 13室	JR八王子駅 8分	30分	A : 4,000円 B : 5,000円
新横浜フジビュ ーホテル	045-473-0021	200室	JR新横浜駅 2分	37分	A : 7,931円 B : 9,064円
新横浜ホテル	045-471-6011	9室	JR新横浜駅 3分	40分	7,365円
新横浜国際ホテル	045-473-1311	104室	JR新横浜駅 3分	40分	9,064円
京王プラザホテル 多摩	0423-74-0111	100室	京王新線多摩セ ンター 2分	30分	9,064円
ビジネス旅館 ハナフジ	0426-61-7427	30室	京王高尾山口駅 3分	40分	4,500円 6,000円 (食事付)

一般講演、展示（ポスター）講演の申込書

締切日 平成3年1月16日（水）

No.

演題名：	
演者名： (共著の場合は演者に○印をつけてください)	
所 属：	
所在地：〒	
TEL：	FAX：

切
り
取
り
線

参 加 申 込 書 (早めにお申し込みください)

氏 名	懇親会（参加は○、不参加は×）
1.	
2.	
3.	
4.	
5.	
所 属：	
所在地：〒	
TEL：	FAX：

§ 日米合同組織培養学会 "1991 World Congress on Cell and Tissue Culture" にご参加、ご出席の方に

日本組織培養学会会長
日米合同組織培養学会組織委員長
黒田行昭

来年(1991年)6月15日(土)~20日(木)、アメリカのカリフォルニアのアナハイムで開催される日米合同組織培養学会につきましては、すでに会員通信第71号(9頁)および第72号(16~19頁)でお知らせしましたが、わが国では日本植物組織培養学会の全面的なご協力を得てご参加していただき、S. I. D.のコンビナーや講演者として多数の日本人が参加いただくことになっています。また、日本、南北アメリカのほかヨーロッパやオーストラリア、ニュージーランド、アジアなど世界各国の組織培養の研究者が参加され、ヒトを含む高等動物や無脊椎動物、植物などあらゆる生物の組織培養の研究発表と討議がなされます。

一般講演(contributed papers)として口頭発表、ポスター展示なども受付けていますので、会員、非会員をとわず多数の方々のお申し込みを期待しています。

このほど、学会本部より、参加、講演、ホテルの申し込み書を含めた第2次アナウンスメントが送られてきましたので、会員の皆様には本会員通信とともにお送りいたします。第2次アナウンスメントには講演申込(Abstract form)の締切りが本年12月15日となっていますが日本からの申込締切りを来年1月20日まで延長していただくことになりました。また、ご参加の方には旅行社におねがいして安い航空運賃で行けるGroup tourや、アメリカ側と提携して学会終了後アメリカ西部の組織培養関係の大学や研究機関、バイオテク関連の会社や企業を訪問する3日間位のScientific tourも計画していますので、この機会にぜひご参加されることをお勧めします。

1991 world Congress on Cell and Tissue Culture
(US-Japan Joint Meeting of Tissue Culture)

Date: June 15, Saturday-June 20, Thursday, 1991

Place: The Marriott Hotel, Anaheim, California, U.S.A

Program:

Date	Morning	Afternoon	Evening
June 15, Saturday	International Meeting on Invertebrate and Fish Tissue Culture		Historical Society Session Welcome Party

June 16. Sunday	Symposium:Regulation of Cell Growth in Tissue Formation Contributed Papers	S. I. D. 1(P) S. I. D. 2(V) S. I. D. 3(T)	Workshop 1(P) Workshop 2(I) Workshop 3(V) Student Social
June 17. Monday	Special Topic: Biotechnology in the Third World S. I. D. 4(I) S. I. D. 5(P/V) S. I. D. 6(T) S. I. D. 7(V)	S. I. D. 8 (R) S. I. D. 9 (V) S. I. D. 10(T) S. I. D. 11(J) Posters Poster Discussion	Workshop 4(I) Workshop 5(T) Workshop 6(V) Plant Division Meeting Plant Division Social
June 18. Tuesday	Symposium:Cellular Interaction in Tissue Development Contributed Papers	S. I. D. 12(P/V) S. I. D. 13(P/V) S. I. D. 14(V) S. I. D. 15(T) Posters Poster Discussion	Workshop 7(I) Workshop 8(T)
June 19. Wednesday	Award Ceremony S. I. D. 16(P) S. I. D. 17(V) S. I. D. 18(T) S. I. D. 19(I)	S. I. D. 20(V) S. I. D. 21(P) S. I. D. 22(V) S. I. D. 23(T) Posters Poster Discussion	Banquet
June 20. Thursday	Symposium:Hormone Receptor Action and Signal Transduction Contributed Papers Workshop 9 (P) Workshop 10(V)	Special Workshop: in Vitro Validation of Cell Toxicology Models	

(I):Invertebrate. (J):Japanese TCA. (P):Plant. (T):Toxicology.
(V):Vertebrate

SCHEDULE FOR 1991 WORLD CONGRESS ON CELL AND TISSUE CULTURE

Revised 9/14 by Y. Kuroda

SATURDAY 6/15

Satellite Meeting : International Conference on Invertebrate and
Fish Tissue Culture

1991 World Congress on Cell and Tissue Culture

Evening:

- 1) Historical Society Session: 7:00-8:30
Chair to be Named
Speaker include : Yukiaki Kuroda, Japan
- 2) Welcome Party: 8:00-10:30

SUNDAY 6/16

Morning:

- 1) SYMPOSIUM: Regulation of Cell Growth in Tissue Formation
8:00-10:15
Convenor: David Altman
Speakers include: Elaine Fuchs, Univ. of Chicago:
Goro Eguchi., Basic Res. Inst. of
Biol. Sci.

- 2) CONTRIBUTED PAPERS: 11:00-1:00

Lunch: 1:00-2:30

Afternoon:

- 1) S.I.D.'s 2:30-5:00
S.I.D. 1 (P) - Developmental Biology of Embryogenesis
Convenor: Atsushi Komamine, Tohoku Univ.
Co-convenor: Ralph Mott, North Carolina State Univ.
Speakers include: Atsushi Komamine, Tohoku Univ.
Yasuyuki Hirosawa, Kirin Beer
Brewary Co.

S.I.D. 2 (V) - Growth of Cells from Bone and Marrow
Convenor: M. Ogawa, Caharleston
Co-convenor: Masayoshi Kumegawa, Meikai Univ.
Speakers include: Masayoshi Kumegawa, Meikai Univ.

S.I.D. 3 (T) - Cellular Effects of Drug Abuse
Convenor: Allison Welder, Univ. of Oklahoma
Co-Convenor: Masami Watanabe, Yokohama City Univ.
Speakers include: Masami Watanabe, Yokohama City Univ.

- 2) CONTRIBUTED PAPERS 2:30-4:30

Evening:

3) WORKSHOP: 8:00-10:00

WORKSHOP 1 - (P) - Industrial Strategies for
Biotechnologies

Convenor: Robert Lawrence, UST

WORKSHOP 2 - (I) - Establishing Invertebrate Cell Culture

WORKSHOP 3 - (V) - Utilization of Cell and Tissue
Culture on Clinical Diagnosis

Convenor: Tohru Okigaki, Shigei Med. Res. Inst.

Night: Student Social

MONDAY 6/17

Morning:

1) SPECIAL TOPIC - Biotechnology in the Third World:

8:30-10:30

Gordon Sato, Alton Jones Cell Science Center

2) S.I.D.'s: 10:30-1:00

S.I.D. 4 (I) - Invertebrate Cell Session

Chair to be Named

Co-convenor: Jun Mitsuhashi, Tokyo Univ. of Agric.
& Technol.

Speakers include: Jun Mitsuhashi, Tokyo Univ.
Agric & Technol.

Kazuhiko Kaji: Tokyo Metrop.
Inst. of Gerontol.

S.I.D. 5 (P/V) - Spatial and Temporal Promoters

Convenor: Nam-Hai Chua - Rockefeller Univ.

Co-convenor: Hirofumi Uchimiya, Hokkaido Univ.

Speakers include: Hirofumi Uchimiya, Hokkaido Univ.
Kenzo Nakamura, Nagoya Univ.

S.I.D. 6 (T) - Intercellular Communication and Tissue
Function

Convenor: Rita Caruso, Univ. of Michigan

Co-Convenor: Kazuhiko Kaji, Tokyo Metropolitan
Inst. of Gerontol.

Speakers include: Jun Fukuda, Univ. Tokyo

S.I.D. 7 (V) - Tissue Specific Transgenes

Chair to be Named

Co-convenor: Tadao Ohno, Inst. of Phys. & Chem. Res.

Lunch: 1:00-2:30

Afternoon:

1) S.I.D.'s 2:30-5:00

S.I.D. 8 (P) - Robotics for Cell Culture

Convenor: Jeanie Aitken-Christie, Rotorua, New Zealand

Co-convenor: Toyoki Kozai, Chiba Univ.

Speakers include: Toyoki Kozai, Chiba Univ.

Yoshiyuki Miwa, Waseda Univ.

S.I.D. 9 (V) - Cell Adhesion Mechanisms

Convenor: Erkki Ruoslahti, La Jolla Cancer Res. Inst.

Co-convenor: Yoshinobu Kanno, Hiroshima Univ.

Speakers include: Yoshinobu Kanno, Hiroshima Univ.

Yoshiki Shiba, Hiroshima Univ.

S.I.D. 10 (T) - In Vitro Analysis of Hazardous Waste Sites

Convenor: Rick Irvin, Louisiana State Univ.

S.I.D. 11 (J) - Serum-Free Cell Culture

Convenor: Isao Yamane, Tohoku Univ.

Speakers include: Isao Yamane, Tohoku Univ.

2) POSTERS: 2:00-3:30

3:30-5:00

3) POSTER DISCUSSION: 5:00-6:00

Evening:

4) WORKSHOPS: 8:00-10:00

WORKSHOP 4 - (I) - In Vitro Parasite Culture

Chair to be Named

**WORKSHOP 5 - (T) - Biochemical and Biophysical Model
of Cellular Toxicology**

Chair to be Named

WORKSHOP 6 - (V) - Large Scale Eukaryotic Cell Culture

Chair to be Named

Co-convenor: Toshiharu Matsumura, Meiji Inst. of
Health Sci.

2) PLANT DIVISION MEETING

3) PLANT DIVISION SOCIAL

Exhibits Open

TUESDAY 6/18

Morning:

- 1) **SYMPOSIUM: Cellular Interactions in Tissue Development:**
8:00-10:15
Convenor: Elliot Levine
Potential Speakers: M. Muskavitch, Indiana
C. Lamb, Salk Inst.

- 2) **CONTRIBUTED PAPERS: 11:00-1:00**

Lunch:

Afternoon:

- 1) **S.I.D.'s 2:30-5:00**

S.I.D. 12 (P/V) - Cell Culture of Endangered Species
Convenor: Betse Dresser, Cincinnati Zoo
Co-convenor: Michael Fay, Royal Botanical Gardens,
Kaw, UK

S.I.D. 13 (P/V) - Batch Production and Fermentation
Convenor: Roland Leathers, Univ. of Lausanne, Switzerland
Co-convenor: Wolfgang G. W. Kurz, Nat. Res.
Council, Canada
Speakers include: Teijiro Morimoto, Mitsui
Petro-Chem. Ind., Japan

**S.I.D. 14 (V) - Innovative Approaches to Antibody
Production**
Convenor: Arnold Horwitz, XOMA Corp., Santa Monica
Co-convenor: Takeshi Watanabe, Kyushu Univ.
Speakers include: Takeshi Watanabe, Kyushu Univ.
Susumu Iwasa, Takeda Pharmaceut. Co.

S.I.D. 15 (T) - Reproductive Toxicology
Convenor: Anna Steinberger, Jarrold Heindel, Univ.
of Texas
Co-convenor: Taisei Nomura, Osaka Univ.
Speakers include: Taisei Nomura, Osaka Univ.

- 2) **POSTERS: 2:00-3:30**
3:30-5:00
- 3) **POSTER DISCUSSION: 5:00-6:00**

Evening:

- 4) **WORKSHOPS: 8:00-10:00**

WORKSHOP 7 (I) - Marine Invertebrate Cell Culture

**WORKSHOP 8 (T) - Validation of In Vitro Toxicology
Models**

Convenor: John Frasier, CAAT
Co-convenor: Makoto Umeda, Yokohama City Univ.

WEDNESDAY 6/19

Morning:

1) AWARD CEREMONY: 8:30-10:00

2) S.I.D. 's 10:30-1:00

S.I.D. 16 (P) - Pollen Culture and Androgenesis:
Convenor: Walf Keller, Natl. Res. Council Plant
Biotech Inst, Saskatoon
Co-convenor: E. Haberle-Bores, Univ. Wien, Austria

S.I.D. 17 (V) - Transplantation of Normal and
Genetically Altered Cells
Convenor: Robert Langer, M.I.T.
Co-convenor: Ryosaburo Takagi, Oita Med. Coll.
Speakers include: Yoichi Yasunami, Oita Med. Coll.
Masatoshi Furusato

S.I.D. 18 (T) - Oncogenes and Tumor Suppressors
Convenor: Eric Stanbridge
Co-convenor: Masayoshi Namba, Okayama Univ.
Speakers include: Masayoshi Namba, Okayama Univ.
Fumio Suzuki, Kanazawa Univ.

S.I.D. 19 (I) - Invertebrate Cells and Tissues in Bio-
technology
Chair to be Named

Lunch: 1:00-2:30

Afternoon:

1) S.I.D.'s 2:30-5:00

S.I.D. 20 (V) - Growth of Cells from Fish and Amphibians
Convenor: Julie Glowacki, Brigham & Women's Hospital
Co-convenor: Akihiro Shima, Univ. Tokyo
Speakers include: Akihiro Sima, Univ. Tokyo

S.I.D. 21 (P) - Field Test Requirements and Performance
of Transgenic Plants:
Convenor: Arnold Foudin, WSDA, APHIS, Hyttsville, MD
Co-convenor: Fusao Motoyoshi, Okayama Univ.

S.I.D. 22 (V) - Molecular Basis of Cellular Aging
Convenor: George Martin, N.I.A., Baltimore, MD
Co-convenor: Youji Mitsui, Agency of Indust. Sci. Technol.

S.I.D. 23 (T) - In Vitro Systems for Drug Evaluation
and Testing
Convenor: Gary Klinefelter, USEPS Research
Triangle Park, NC
Co-convenor: Hank Lane, Costar Corp., Boston

2) POSTERS

3) POSTER DISCUSSION: 5:00-6:00

Evening:

BANQUET: 8:00

THURSDAY 6/20

Morning:

- 1) SYMPOSIUM: Hormone Receptor Action and Signal Transduction:
8:00-10:15

Convenor: Bruce Zetter

Potential Speakers: R. Kahn, Harvard
Toshio Kuroki, Univ. of Tokyo

- 2) CONTRIBUTED PAPERS: 11:00-1:00

- 3) WORKSHOPS: 11:00-1:00

WORKSHOP 9 (P) - Gene Transformation in Plants:
Convenor: Ted Klein, Dupont

WORKSHOP 10 (V) - Fluorescence Analysis of Cultured Cells
Convenor: Glenn Rice, Genentech
Co-convenor: Tetsushi Nagata, Shinsyu Univ.
Speakers include: Tetsushi Nagata, Shinsyu Univ.
Yutaka Shimada, Chiba Univ.

Afternoon:

SPECIAL WORKSHOP (T) - In Vitro Validation of Cell
Toxicology Models
Convenor: John Frasier, Gene Elmore

§ 日本組織培養学会平成2年度第2回幹事会議事録

日 時：平成2年11月6日 午後3時～7時半

場 所：ソニックシティー大宮（埼玉県大宮市）

出席者：黒田行昭（会長）、今西二郎、岩田邦男、下田隆夫、永森静志、西義介、
星宏良、山田堅一郎、（以上幹事）、高木良三郎（編集委員会委員長）、
梅田誠（会計補佐）、松村外志張（細胞工学委員会委員）

1. 報告事項

1. 会長報告（黒田会長）

第5回日本組織培養学会秋季シンポジウム「Bone Cell Biology」及び第2回日本組織培養学会細胞工学シンポジウム「バイオアクティブマテリアルと分化・発生」が11月7日、8日に開催されることになり両シンポジウム世話人の久米川正好明海大学教授とバイオマテリアル研究所小林茂保博士に感謝いたします。また、来年3月には第64回大会が麻布大学で、6月には米国カリフォルニアで日米合同組織培養学会が開催されますので多数の会員が参加されますようお願いいたします。

2. 庶務報告（今西幹事）

本年5月より10月までの下記の庶務報告と同期間における新入会員及び退会者の報告がなされました。なお、新入会員と退会者名は本会員報告に掲載されたとおります。

- (1) 日本学会会議宛に学術研究団体登録申請を6月末に行いました。
- (2) 島津科学技術振興財団より研究開発助成及び海外研修研究援助応募書類が送付いたしました。本件については山田会員通信幹事に書類を送付し、会員通信第72号に記載されました。なお、10月末現在本件に関する応募希望はありません。
- (3) 「医学の歩み」より来年度学会予定に関する情報希望があり、黒田会長に書類送付の上、会長より「医学の歩み」へ御返送いただきました。
- (4) 前幹事難波先生（岡山大学）より前幹事水沢先生（国立衛試）を経由して「幹事改選に関する規約細則の改正について」の会員通信への掲載依頼がありました。山田会員通信幹事に依頼し、会員通信第72号に記載されました。
- (5) 以下の書類及び情報もたらされましたが会員への伝達手段が無いため、岩田庶務幹事のところで保存あるいは会長の御判断をお願いし処理しました。
 1. 第61回科学技術情報流通技術基準（SIST）普及説明会に関する協力依頼：北海道地区（開催日：7月13日）
 2. 社団法人 日本工学会より「学術法人法（仮称）等の制定運動にご協力をお願い」に関する書類が送付され、学会としての意見を希望されていたため、黒田会長に一任しました。
 3. 科学技術庁・宇宙開発事業団より「日本実験モジュール（JEM）利用の事前調査について」の書類が送付されました。学会としての利用計画というものは明確になっていないとの判断の上、今後の情報送付についてのみ依頼したかたちで返答しました。
 4. (株)オービス、(株)ライフサイエンス・メディカより「Association Information

of Respiriology) (国内発表の呼吸器関係の論文の抄録集で季刊9の第一巻第一及び第二号の寄贈を受けました。

5. 本学会が協賛した日本宇宙生物科学会第4回大会プログラム・予稿集の寄贈がありました。
6. 本学会が後援を承諾しました第5回「大学と科学」公開シンポジウム「食品のもつ生体調節機能」のプログラム及び参加申込書が送付されました。本件は参加締切が平成3年1月12日であるため次号の会員通信に掲載依頼を会員通信幹事に行いました。
- (6) 平成2-3年度「日本培養学会幹事会及び関連委員会」名簿を作成し、幹事及び各委員会委員長宛に送付しました。

会長より現時点での会員総数についての質問がされ、西幹事より正会員710名、賛助会員63社(99口)、名誉会員7名、外国会員13名、計793名(社)と報告されました。

3. 会計報告(西幹事)

平成2年度会計中間報告がなされ、一般会計の収入の硬直化が指摘されました。また、会費の長期滞納会員に対する納入要望書を送付し、若干名の納入が行われたことが報告されました。

4. 渉外報告(星幹事)

IACCへの加盟費納入に関する手続き上の確認がなされました。「World Congress on Cell and Tissue Culture」等の外国との通信に用いる英文レター用紙の作成経過が報告されました。また、会長よりレター等に用いる学会シンボルマークも制定について提案がなされました。

5. 奨励賞推薦状況報告(永森幹事)

現在までのところ候補者の推薦はなく、積極的な推薦が希望されます。なお、第62回および第63回大会時の座長の方々に推薦権があることから、再度座長の方々へ推薦依頼を行うことになりました。

6. 会員通信報告(山田幹事)

会員通信72号(総ページ数:32ページ、発行部数:850部)発行についての報告がありました。第73号発行は本年12月中旬の予定であることが報告されました。

7. 各委員会報告

a. 編集委員会報告(高木委員長)

- 1) 札幌での日本癌学会総会の際編集委員会が開催され、著作権問題で複写権センターの活動内容と本学会のセンターへの加入が論議されましたが、現時点においては時機尚早であり様子を見ることとしたとの報告がなされました。
- 2) 以前より懸案となっている年4回の「組織培養研究」発行について論議されました。年4回発行のためにまずoriginal論文の投稿増加が必須であることが指摘されました。そのためには「short communication」のような形式を採用することも一手段ではないかとの論議も出されました。一方、年4回発行により文部省科学研究費による補助が可能となりますが、費用の点で会費の値上げも必要になることが指摘されました。今回の論議の結論としては「より多くの論文が投稿さ

れるよう会員に呼掛けを行い、投稿論文数の増加により発行回数が増加せざるをえない状況にしていくことをアピールしていく”こととしました。

3) 秋発行の「組織培養研究」の広告費集めを編集委員会で行っているがその労力的な負担は大きいものであるとのことが指摘され、これは委員会ではなく学会として対応していくべきであろうとの提案がなされました。負担軽減の一手法として賛助会員に対して、年2回の「組織培養研究」の広告料を年契約としてはどうかとの提案もなされました。具体的な方法について西会計幹事より賛助会員各社に対してアンケート調査を行うことが決められ、その結果により広告料の年契約制導入を再度検討することとしました。

b. 細胞バンク委員会（屋委員長）

1) 細胞バンク委員会規約（本会員通信参照）の提案がなされ、承認されました。

2) 「組織培養研究」supplement発行の報告がなされました。

3) 細胞バンク委員会で作成した各関連省庁への提出を希望している「わが国における培養細胞の保存供給体制整備に関する要望書（案）」及びそれに賛同してもらうための各関連学会、団体に対するアピール文（案）が提出されました。各団体に対しては本年度中に送付し、平成3年5月には各省庁へ提出することを目指しているとの考え方が示されました。会長および幹事で問題点の有無を検討した後発想することが確認されました。

4) 文部省科研費により各細胞バンク間の「data base」統一作業が進行しており、平成3年3月には終了する予定であることが報告されました。なお、その「data base」の出版を行いたい旨の表明がなされました。

c. 細胞工学委員会（松村委員）

現状では本学会大会におけるBiotechnology 関係の発表が少ないため、その呼び水として秋季シンポジウムを開催していきたい旨の表明がありました。したがって、大会での講演増加にともない秋季シンポジウムの開催の必要生もなくなるであろうとの考え方も示されました。なお、平成3年度には開催予定であり、11月7日の委員会でテーマ及び開催地に関する討議を行う予定であるとのことが示されました。

協議事項

1. 平成3年度予算について

西幹事より平成3年度予算案について提案があり論議されました。なお、最終予算案については第64回大会前の幹事会で検討され、総会に提案され予定です。再度、学会予算、とくに一般会計の硬直化が論議され、「組織培養研究」の発行回数の増加にともない学会費の値上げなどについての議論もなされました。

2. 会計監査の選任について

黒田会長より会計監査として佐藤温重会員（東京医科歯科大）、加治和彦会員（都老人研）への委嘱が提案され、承認されました。両氏の承諾をいただいた後、委嘱状を発行することとしました。

3. 第64回大会準備状況について

黒田会長（第64回大会世話人）より大会の準備状況が報告されました。第64回大会

は平成3年3月22日(金)～24日(日)、麻布大学キャンパスで開催され、特別講演としてシカゴ大学 A. A. Moscona教授、組織培養研究所高岡聡子博士を予定しており、5つのテーマについてのシンポジウム、ワークショップのほか、一般講演(口演およびポスター)に多数の方々の参加を期待する旨の報告がありました。講演申込締切は平成3年1月16日(水)、抄録締切は同2月9日(土)の予定です。なお、大会の詳細については本会員通信に掲載されました。

4. 日米合同組織培養学会準備状況について

黒田会長より日米合同組織培養学会が「World Congress on Cell and Tissue Culture」として開催されることが報告されました。これは平成3年6月15日(土)～20日(木)、米国カリフォルニア州アナハイムで開催され、日本からも多数の研究者がシンポジウムやセッション・イン・デプスに参加、講演されます。なお、近々には Second Circular が発送される予定です。

5. 平成4年度第65回大会および平成3年度シンポジウムについて

平成4年度第65回大会および平成3年度秋季シンポジウム開催の開催地および世話人等に関する論議が行われました。これまでの開催地の状況やいくつかの候補地について議論されましたが、これは平成3年3月の幹事会で決定される予定です。

§ 細胞バンク委員会 平成2年度第1回 議事録

日 時：平成2年7月21日(土曜日) 午前11時～午後3時

場 所：神田学士会館 301号室

出席者：梅田 誠、大野忠夫、川村杉生、工藤俊雄、佐藤敬喜、竹内昌男、田中憲穂、宮崎正博(難波正義代理)、星 宏良、松村外志張、水沢 博

1. 新たに細胞バンク委員会の委員長に就任した星 宏良幹事から挨拶の後、第2次細胞バンク委員会発足の経緯、これまでの経過と今後の方針について簡単な説明が行われた。また、本委員会の規約が検討され、案として制定された。幹事会に提出した承認を得ることとなった。その中で、本委員会の名称を「細胞バンク委員会」とすることとした。

2. 第1次細胞バンク委員会での討議内容は報告書としてまとめられ、既に日本組織培養学会機関誌のサプリメントとして印刷中である。この報告書を培養細胞を利用した研究を多く実施している関係学術団体や関係省庁へ提示し細胞バンクの整備を訴えるアピールを作成することになった。原案は大野委員が作成し、持ち回りで検討することになった。

アピールの出し方については議論の結果、まず関連学術団体に向けて行い、各団体の賛同を得て、培養学会から関係省庁に対して要望書を出していきけるようお願いするのが適切であろうということになった。学協会のリストは田中委員が作成することに

なった。

3. 細胞バンクの整備については他の関連学術団体と連絡しながら行なう必要があるとの認識から、日本微生物株保存関連とはより緊密な連絡を保つ必要があると思われるので細胞バンク委員会として参加する必要があることが確認された。これに関連して微生物保存連盟に学会としての参加が可能か否か打診することになった。
4. 有用細胞株の推薦分科会の設置が提案されたが、今会議での即断は行なわず継続して討議することになった。
5. 細胞株データベースについてはその基本構成について前回の細胞バンク委員会で作成され、報告書に掲載された。また、その詳細については組織培養（水沢博、16、117-123(1990)に紹介した。なお、本委員会の名称で文部省科学技術研究費情報公開促進費として申請し受理されたので、今年度中にデータ入力を行なうことになったことが水沢委員から報告された。

データは現在稼働中の細胞バンクのものとし、醗酵研究所、理研ジーンバンク、国立衛生試験所、東北大学のデータを入力することになり、予算の執行はその入力のために使うことになった。

作成したデータベースの公開方法は理研ジーンバンクからコンピュータを利用したオンラインのシステムとして提供することを考えているとの大野委員からの提案があった。また、書籍として発行することについても水沢委員から提案されたが、その可能性については梅田教育システム委員会委員長に検討して頂くことになった。また、これは公的な性格も持つことから文部省科学技術研究費情報公開促進費の中の出版助成金を申請することについても検討するという事になった。
6. 細胞バンクにおける細胞株の品質管理については前委員会でマイコプラズマ、アイソザイム分析については標準化に関するプロトコルが決められたが、その他の方法についても今回の委員会で作成する必要があるとの提案がなされた。

項目については、核型分析（田中委員担当）、DNAフィンガープリント法（水沢委員担当）、ウィルス検査、PCR法については後日討議することとなった。
7. 培養細胞の所有権と人体から研究用の細胞を得る場合の倫理基準について、日本組織培養細胞学会とし基準を作成する試みを本委員会で行なうこととなった。松村委員から関連資料が提出された。
8. 次回細胞バンク委員会の予定：11月6, 7, 8 日のいずれか（大宮ソニックシティー）

資料

1. 細胞バンク委員会規約(案)
2. 細胞バンク関連データベースについて: '86-'90 Medline 検索結果
3. 培養細胞に関する倫理審査資料
4. Protocol for DNA fingerprint
5. 細胞バンク運営の現場で使う細胞株データベースの作成と運用・組織培養、16.117-123, 1990. 別刷
6. Culture collection guidelines. US Federation for Culture Collections News Letter, 19 (2), 1-10, 1989.
7. 培養細胞コレクション機構の基本構成について
8. 遺伝子資源保存に関する国の方針: 平成2年度日本微生物株保存連盟 抄録集、p.4, 1990.

§ 本年度の秋季シンポジウムを終えて

明海大学歯学部

口腔解剖学第一講座

久米川 正 好

第5回日本組織培養学会秋季シンポジウムおよび第2回細胞工学ジョイントシンポジウムは11月7、8日の両日、大宮ソニックシティ小ホールで開かれた。今回のプログラムは細胞工学シンポジウム世話人の小林茂保氏らとの共同企画によるものである。

その主旨は、組織培養学会の方々には“Bone cell biology”の現状を知っていただき、Bone cell biology 関係者は細胞工学からの様々な研究内容を知り、新たなアイデアが得られればということであった。そのため細胞工学シンポジウムに「バイオアクティブマテリアルと分化・発生」とBone cell biology にも関連した内容を取上げて頂いたことに感謝している。また、今回は第1日目の夜にジョイントセッションを設け、東大医学部老人科 折茂肇教授が、“Bone cell biology”の必要性について最近制作された16mm映画とともに講演された。また、バイオマテリアル研究所長の小林茂保氏はヒトインターフェロンの細胞培養法による大量調整についての草分け的な仕事の紹介があった。両者の講演は通常の学会ではお互に知る機会が比較的乏しいと思われる話題であり、大変有意義であったと思う。

シンポジウムの詳細は後日「細胞培養研究」に報告の予定であるが、第1日目は細胞の発生・分化における基質の問題と細胞自身についての最先端の話題が6人の演者によって提供された。2日目は、Bone cell biology が主題で骨組織を構成している軟骨細胞、骨芽細胞、破骨細胞について種々な視点からの報告があり、組織培養関係者にも、Bone cell biology の現状をご理解いただけたものと思う。

主催者の意図をくみ、ご協力頂いた座長、演者および黒田会長を始めとするfloor からの熱心なdiscussionに支えられ、熱気あふれる充実したシンポジウムとなった。ここ

に改めて関係者諸氏に感謝する次第である。

最後に今後のため、本シンポジウムの裏データを提供しておきたい。有料参加者179名(3,000円)、座長、講演者22名、協賛会社よりの参加者数は10名で、200名前後の参加者となった。収入は参加費、学会からの補助と会社からの協賛費である。一方、支出の主なものは会場費(技術者代含む)約50万円、ポスター、抄録集代50万円、懇親会費30万円、座長、演者へ交通費、謝礼約120万円であった。今回、各大学、研究所へのポスターを2~3の関連学会でパンフレットを配布した。今後の問題点として、当日まで抄録集が予算の都合で配布できないこと、また参加者数が分からないこと、さらに細胞工学とのジョイントシンポジウムは大変よいと思うが、テーマ、開催場所などが問題となるであろう。

なお、抄録集ご希望の方は、久米川まで連絡いただきたい。

§ 第1回アジア太平洋細胞生物学会 (First APOCB Congress) に参加して

重井医学研究所細胞生物
APOCB事務局長
沖 垣 達

去る11月3日~7日、中国上海において開催されたAsian-Pacific Organization for Cell Biology (略称 APOCB) の第1回大会に出席した機会をとらえ、この大会ならびに関連事項について印象を記したい。

APOCB は日本、オーストラリア、ニュージーランド、インド、中国、台湾、香港、フィリピン、韓国、ベトナムの細胞生物学研究団体および有志によって1988年に結成され、今年マレーシア、インドネシアほかの団体が加入する予定の国際学会である。

今回の中国上海での大会については、早くから中国細胞生物学会が主催の意志を表明し、経済的に恵まれない悪条件を克服して成功に導いた。大会には総数400名に近い参加者があり、そのうち日本からは35名の招待演者を含めて60名内外の出席があったものと思われる。主催国の中国にとっては、台湾、韓国からの積極的な参加と、米加両国からの20名のオブザーバーの出席も大きな意義を持っていたに違いない。

5日間のプログラムは毎日1題の特別講演、19のシンポジウム、2ミニワークショップ、ポスター発表にわけられ、十分に国際学会の形式を整えていた。

特別講演、開会講演でもあった岡田善雄教授(阪大細胞工学センター)は、「定年退官直前に記念すべき機会を得た」と前置きされ、細胞融合の歴史と問題点を総括して、多大の感銘を与えた。日本からのもう1人の特別講演者広川信隆教授(東大医学部)は、神経細胞の細胞骨格について構造、機能、そして遺伝的分析にわたる最近の情報を、見事なスライドを用いて紹介し、何事につけても日本の研究に注目するアジアの研究者に溜息をつかれたといったよいであろう。私見ではこの大会の圧巻であると思っている。

シンポジウムは、中国人と外国人の共同座長制をとり、動植物を問わず近代の細胞生

物学の問題点の大半を取りあげた。演者中には本学会会員中、大野忠夫、村上浩紀、市原明、難波正義、小出典男および筆者が参加し、ほかに日本細胞生物学会から田代会長を始め代表的な方々が出席した。

アジア太平洋地域の特異性を考慮して企画されたシンポジウム「Teaching and Training in Cell Biology」では、日本、米国、カナダ、ニュージーランド、フィリピン、中国の教育制度とその効果についての紹介があったが、参集した中国の若い研究者や学生の熱い視線が印象的であった。会期中には中国医学院上海細胞生物学研究所の見学があり、私たちは所員の手厚い歓迎と説明をうけた。この研究所は10階建のビルで、100名以上のスタッフを容し、今年から定期出版の機関誌「Cell Research」を刊行している。この国の持つ種々の事情によって、研究成果については先進国における面はあるが、この分野の育成を目指す態度に敬意を表すべきものがあった。

ともかくにも、アジア地区で始めての、研究集会は成功裡に終わった。APOCB 設立の準備期以来、協力する立場にあった筆者にとっても、ひとつの仕事が済んだことになる。あえて私見を申せば、経済的負担の大きい国際学会を主催しうる国は、アジア地区には多くはない。従って、定期的な会合は決して強制されるべきではなかろう。一方、種々の事情で研究や学習に恵まれない近隣諸国の若者たちに少なからぬ協力援助をおしむべきではない。いずれにして、わが国が憧憬と期待とそれに加えた複雑な目で見られていることを、今後は研究者も知る必要があるだろう。

なお、APOCB の第2回大会は、新会長Judie Waltonのもとで4年後の1994年、オーストラリアのシドニーで開催される。また、Walton会長の強い指名で、事務局長には筆者が再任された。本学会会員諸氏の御理解と今後の協力をお願いして、印象記とする。

§ 関連学会開催案内

1) 第5回「大学と科学」公開シンポジウム

「食品のもつ生体調節機能」

— 機能性食品の未来像 —

会 期：平成3年1月17日（木）～18日（金）

会 場：大阪フェスティバル・リサイタルホール

（大阪市北区中之島2-3-18 TEL 06-203-7027）

事務連絡先：「食品のもつ生体調節機能」事務局

〒600 京都市下京区塩小路通新町西入

（新京都センタービル5F）

（株）ジェイコム内

☎(075)341-1618 FAX (075)341-1917

担当 西澤具文 原納佐和

2) 第23回日本医学会総会ガイド

メインテーマ「転換期に立つ医学と医療」

— 創造と調和と信頼 —

期 間：平成3年4月5日～7日

学術講演は平成3年4月5日（金）から7日（日）の間、京都・岡崎地区と宝ヶ池地区で中心に開かれる。総合医学展示も3日（水）から7日（日）の間、宝ヶ池地区、岡崎地区、竹田地区を中心に6会場で開催される。各委員会の準備も着々進んでいる。また会員登録受付も4月1日よりスタートした。

		事 前	当 日	備 考
		1990年4月1日～ 1991年2月末日	1991年4月5日～ 7日	
会 員	A	25,000円	30,000円	B・C以外の全員
	B	10,000円	15,000円	卒後6年までまたは大学院生
	C	8,000円	10,000円	コ・メディカル
同伴者		5,000円	8,000円	登録者のご家族

*事前登録締切：1991年2月末日（3月1日以降は当日の受付とさせていただきます）総会誌代（希望者）1冊12,000円

詳細については、京都市左京区吉田牛ノ宮町11-1 芝蘭会館内
第23回日本医学会総会登録室 TEL 075-752-4777 FAX 075-752-4747

3) 第7回初代培養肝細胞研究会

日 時：平成3年6月7日（金）、8日（土）

場 所：札幌医科大学 講堂

〒060 札幌市中央区南1条西16丁目

TEL 011-611-2111

世話人 札幌市医科大学 病理学第二講座 森 道夫

出席、発表の詳細は下記に郵便にてお問い合わせ下さい。

連絡先 初代培養肝細胞研究会事務局

〒770 徳島市蔵本町3丁目18番地の1

徳島大学酸素科学研究センター 酸素病理部門

§ 訂正記事

第72号会員通信の新入会員（P. 27）で下記の会員の住所・所属機関に誤りがありましたので、ここにお詫びして、訂正致します。

佐川公矯 〒830 久留米市諏訪野町2570-8-704
☎ 0942-39-5884

久留米大学医学部免疫学教室
〒830 久留米市旭町67
☎ 0942-35-3311

§ 編集後記

- 第5回秋季シンポジウムと第2回細胞工学シンポジウムは合同で、久米川正好、小林茂保両会員のお世話で大宮市ソニックシティで盛会のうちに終了しました。関係各位の御尽力に心から感謝致します。
- 第64回大会は黒田会長のお世話により平成3年3月22～24日の会期で麻布大学において開催されます。会員各位、奮って御発表、参加をお願い致します。
- 日米合同組織培養学会は1991年6月15～20日、米国カリフォルニアのアナハイムで開催されます。貿易問題など、摩擦の多い日米間の昨今、この機会を日米間摩擦解消の一助にも御活用下さい。
- 今年も残すところ僅かとなりました。東西、南北の対話、協調の時代到来の反面、湾岸危機で一触即発の状態が続いている今日です。来年は内外共に充実した、平和な世界が訪れることを願っております。
会員の皆様方が素晴らしい新年を迎えられることを祈りつつ。
ざわめきつ 暗き参道 踏の音

§ 新入会員

氏名	現住所	所属機関・所在地
萩原 喜久美	〒194-02町田市上小山田町528-12 ☎0427-97-3659	麻布大学 〒229 相模原市淵野辺1-17-71 ☎0427-54-7111
川村 杉生	〒305 つくば市松代1-22-11 ☎0298-51-9136	通産省工業技術院微生物工業技術研究所 〒305 つくば市東1-1-3 ☎0298-54-6077
工藤 俊雄	〒981 仙台市青葉区中山5-8-33 ☎022-278-4735	東北大学抗酸菌病研究所癌細胞保存施設 〒980 仙台市青葉区星陵町4-1 ☎022-273-9508
坂野 俊宏	〒571 門真市堂称寺町20-5 ㊦-ｸﾘ- ﾌｼﾞｮﾝ 大和田402 ☎0720-81-8281	(株)マングラム中央研究所 〒540 大阪市中央区十二軒町5-15 ☎06-762-5531
柴沼 質子	〒145 大田区田園調布2-4-13-202 ☎03-721-2474	東京大学医科学研究所 〒108 港区白金台4-6-1 ☎03-443-8111
下田 次郎	〒010 秋田市広面字高田6-207 ☎0188-35-4785	秋田大学医学部泌尿器科学教室 〒010 秋田市本道1-1-1 ☎0188-34-1111
祖父尼 俊雄	〒349-02埼玉県南埼玉郡白岡町小久喜 916-3 ☎0480-92-9872	国立衛生試験所変異遺伝部 〒158 世田谷区上用賀1-18-1 ☎03-700-1141
土屋 新男	〒228 座間市入谷2-164-7 ☎0462-53-9064	麻布大学環境保健学部 〒229 相模原市淵野辺1-17-71 ☎0427-54-7111
中村 淳郎	〒418 富士宮市宮原713-2 ☎0544-23-6821	テルモ(株)富士宮工場 〒418 富士宮市三園平818 ☎0544-27-7120
村田 康恵	〒411 三島市大場163-1 ☎0559-77-3144	東洋醸造(株)生物工学研究所 〒410-23静岡県田方郡大仁町三福632-1 ☎0558-76-2111
山田 隆司	〒569 高槻市大手町3-19-204 ☎0726-75-8136	大阪医科大学産婦人科 〒569 高槻市大学町2-7 ☎0726-83-1221

S 住所変更

氏名	現住所	所属機関・所在地
赤池敏宏	〒202 保谷市下保谷4-15-23 ☎0424-22-2774	東京工業大学生命理工学部生体分子工 学科 *〒227 横浜市緑区長津田町4259 ☎045-992-1111
安藤俊夫		愛知県がんセンター研究所生化学部 〒464 名古屋市千種区鹿子殿1-1 ☎052-762-6111
清宮健一		大阪府立大学農学部獣医学科毒性学教室 *〒591 堺市百舌鳥梅町4丁804 ☎0722-52-1161
佐藤征二		協和メディックス(株)研究所 *〒411 静岡県駿東郡長泉町南一色 600-1 ☎0559-88-6000
情野一郎		協和発酵工業(株)医薬研究所 *〒411 静岡県駿東郡長泉町下土狩1188 ☎0559-86-7600
高倉健	*〒879-66大分県大野郡緒方町大字馬場 712 緒方病院医師宿舍 ☎0974-42-3524	
高山泰子	〒171 豊島区西池袋2-36-1-608 ☎03-987-3836	練馬総合病院産婦人科 *〒176 練馬区旭丘2-41-1 ☎03-972-1001
葛宗俊明	〒664 伊丹市千僧字野末1 伊丹合同 宿舍1525	大阪検疫所検疫課 * 〒552 大阪市港区築港4-10-3 大阪港湾合同庁舎 5F ☎06-571-3522
鶴田喜久雄	*〒861-05山鹿市山鹿栄町178 職員山鹿住宅2F6	熊本県立農業大学校農学部 *〒861-11熊本県菊池郡合志町栄3805 ☎096-248-1188
難波正義	〒700 岡山市宿400-17 ☎0862-28-2421	岡山大学医学部癌研病理部 *〒700 岡山市鹿田町2-5-1 ☎0862-23-7151
西島和弘	*〒876 佐伯市城下西町4-6 ☎0972-24-3283	川澄化学工業(株)品質保証部 〒876-01大分県南海部郡弥生町大字大坂 本2051 ☎0972-46-0229
西山省二		明治製菓(株)安全性研究所 *〒222 横浜市港北区師岡町760 ☎045-545-3175
町井昭	*〒517-02三重県志摩郡磯部町築地 1557-6 ☎05995-5-2241	

氏 名	現 住 所	所 属 機 関 : 所 在 地
村 上 龍 夫	〒830 久留米市長門石町362-6 富松コーポ 203号 ☎0942-38-4469	久留米市大学医学部小児科学教室 〒830 久留米市旭町67 ☎0942-35-3311